

社会とのかかわり

地域社会とともに

JR東日本では、これまで取り組んできた「ステーションルネッサンス」をより進化させ、「選ばれる沿線ブランドづくり」として、地域社会の一員として、地域の皆さまとともにあるべき未来を考え、元気な地域の構築へと取り組んでいます。

東京駅の丸の内側においては2012年10月に東京駅丸の内駅舎保存・復原が完成し、八重洲側においては「グラントウキョウノースタワー/サウスタワー」に加えて2013年9月に大屋根・ペDESTリアンデッキ等の「グランルーフ」が開業し、2014年秋には八重洲口駅前広場が完成します。駅構内には商業ゾーン「グランスタ」等を展開しており、これらを合わせて「東京駅が、街になる」をコンセプトに「東京ステーションシティ」と名づけ、首都東京の玄関口にふさわしい、新しい文化の発信地としてのまちづくりをめざしています。

さらに、地方自治体等からの要望に基づき、まちづくりに合わせた新駅設置、自由通路設置等に伴う駅舎整備等を自治体と協力して進めています。2011年度には、武蔵野線に吉川美南駅（新駅）を設置したほか、2013年度には、五能線藤崎駅にコミュニティスペース（自治体施設）を併設した駅舎整備を行いました。その結果、1987年の会社発足より自治体施設を併設した駅は、85駅（2014年3月31日現在）になりました。また、2013年度には、川越線指扇駅、内房線長浦駅や越後線白山駅等において自由通路設置に伴う駅改良を行いました。



五能線藤崎駅



越後線白山駅自由通路



グランルーフ/八重洲口駅前広場

移住促進プログラムへの参画

「グループ経営構想V」において、地域の活性化に貢献するとともに、新たな交流人口を生み出すことを目的として、自治体の進める移住促進プログラムへのサポートに取り組むこととしています。その初めての事例として、長野県、佐久市と青森県、弘前市・十和田市移住・交流促進のために連携して取り組むこととしました。

移住セミナー・移住お試しツアー

移住前の不安を解消するために、首都圏での移住に関するセミナーや実際に現地を体験していただくための視察旅行を実施。自治体のコンテンツ（居住環境の現地説明会、農業体験等）と新幹線等を組み合わせ、JR東日本の保有する宣伝媒体（会員誌、ホームページ等）・販路を活用して移住施策をサポートします。

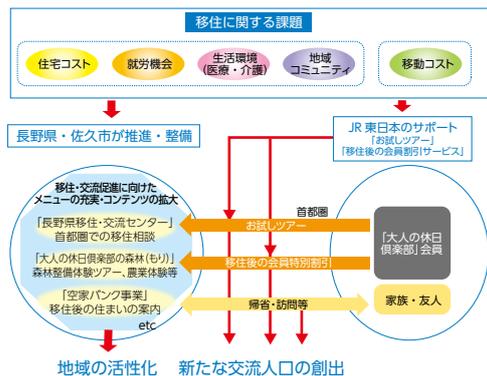
移住後の移動サポート

移住後も気軽に首都圏へお出掛けいただけるよう、移住先の佐久平～首都圏間の移動をサポートするサービスを準備中です。

グループを活用したサポートメニュー

ショートステイや移住後に課題となるモビリティ面での支援メニューとして、大人の休日倶楽部会員向け長期レンタカー割引プランなどグループ力を活用したサポート内容を提供しています。

■ 三者連携スキーム(長野県・佐久市)



移住お試しツアー

鉄道の立体交差化によるまちづくり・交通円滑化への貢献

交通渋滞の解消、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図るとともに、鉄道により隔てられている街の一体的な発展を図るため、沿線自治体により計画・実施されている南武線稲城長沼駅付近や信越線新潟駅付近等の立体交差事業に当社も協力しています。

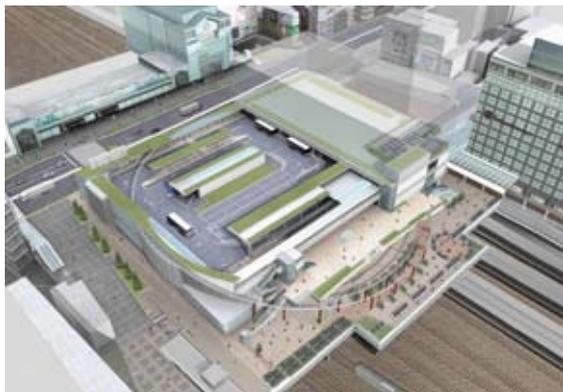
南武線稲城長沼駅付近連続立体交差事業では、2013年12月に高架上り線切換を実施したことによって事業区間全15踏切が廃止となり、交通渋滞の解消、街の一体化が図られ、まちづくり・交通円滑化に貢献しています。



南武線稲城長沼駅付近高架化

駅の交通結節機能の充実・高度化による総合交通体系の整備

駅は様々な交通施設が集中し、大勢の人が集まります。都市交通の円滑化や交通結節点としての機能強化を図るため、国や関係自治体と連携して、他の交通機関との相互直通運転や乗り換え利便性の向上を推進しています。新宿駅では、国土交通省と連携のうえ、線路上空に人工地盤を構築し、バス発着場やタクシー乗降場等、交通結節点としての施設整備を行い、総合交通体系の整備に貢献しています。



新宿交通結節点整備

地域再発見プロジェクト

「地域再発見プロジェクト」の展開

地域との連携を強化する「共創」戦略のもと、首都圏と地域の間で大きな循環を生み出し、インバウンドも見据えた新たなマーケットを創造することをめざす「地域再発見プロジェクト」を推進しています。これは、JR東日本グループが有する地域と地域を結ぶ鉄道ネットワークや地域の拠点としての駅、幅広い事業ノウハウ、首都圏を中心とした販路・広告媒体、地域の一員としての人材といった強みを活かしながら、首都圏と地域の双方向での情報発信や販路の拡大、伝統文化、祭り、地産品といった有形無形の観光資源の発掘と紹介などを行うものです。

首都圏においては、地元の人がおすすめの観光資源を提案してお客さまをご案内する旅行商品「旅市」と連動したり、デスティネーションキャンペーン等の営業施策と連動して地産品販売と観光PRを行う「産直市」を開催しています。2012年1月には上野駅に、2014年3月には秋葉原駅に、食を中心とした情報発信型の地産品ショップ「のもの」をオープン。「旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの」など地産品を販売しています。これらを通じ、地域の方々と連携した情報発信に取り組んでいます。

地域においては、2010年度に青森駅前に県産りんご加工用の「工房」と「市場」の複合施設「A-FACTORY」を開業し、様々なイベントなどを通じ、地域の方々との連携を深め地域活性化に取り組んでいます。また、2013年9月には、6次産業化に向けたものづくりプロジェクト「のもの1-2-3(ワン・ツー・スリー)」を始動させ、信州の鹿肉を活用した「信州ジビエ鹿肉バーガー」を発売したり、東京産の素材にこだわった「スイーツアトリエ TOKYOの畑から」をエキュート東京にオープンさせるなど、地域の課題解決に向けた6次産業化に取り組んでいます。

今後は、地域の魅力を伝える「産直市」や「マルシェ」の開催拡大や、農林漁業の6次産業化の推進などを通じて、さらなる地域産業の活性化に取り組んでいきます。



地域再発見プロジェクト「産直市」



地産品ショップ「のもの」秋葉原店



旅行商品「旅市」

VOICE

—『のもの』秋葉原店—

首都圏の皆さまに東日本の魅力を発信していきたい

店名の『のもの』は、東日本の各地域の食を中心に「旬のもの、地のもの、縁のもの」を紹介、発信するというコンセプトのもと、その地域ならではの商品を集め首都圏の皆さまに新たな発見や驚きをお届けしたいという想いから生まれたお店です。秋葉原駅周辺は、東京の中でも特に「新たな文化を発信する場所」という側面がありますので、「のもの」という新たな食文化の発信をしていくお店を出すには、最適な場所だと思いました。

『のもの』では、東日本各地域の食材が皆さまの毎日の食生活に溶け込んでほしいという願いのもと、地



域のメーカーや農産物の生産者と協力し、私たちスタッフが厳選した商品を集めています。約500種の常時お取り扱い商品のほか、およそ1ヵ月ごとに「特集県」を設定し、その県のエッセンスを絞った魅力の高い商品を期間限定でご用意しています。

地域の品というとお土産の類を思い浮かべる方も多いと思いますが、『のもの』の場合、地方の方々が日常的に消費しているものをお届けすることにこだわっています。そのため、地方でしか手に入らないクラ

フトビールや地域色豊かなおつまみ、特産のデザートなどを会社帰りの方が買っていかれるといったご利用スタイルが多くなっています。

実際にお客さまからは、「いつもお取り寄せしていた商品が会社帰りに気軽に買えるのでうれしい」「旅行先で気に入ったものが東京でも手に入った」「出身県の名物が置いてあるので懐かしい」というお声をいただいています。

このお店の最終的な目標は、地方の食材を通じて東日本の魅力を『のもの』から発信し、首都圏の方々に「直接現地を訪ねてみたい」という思いを抱いていただき、その地域へ足を運んでいただくことです。

私は店長として、スタッフ自身ももっと商品に対する知識を増やすことで、お客さまに対して自信をもってご提案やご紹介ができる「東日本のコンシェルジュ」になってほしいという想いがあります。また、メーカーや農家の皆さまに安心して品物を預けていただくためにも、スタッフ育成に力を入れることが自らの役割だと考えています。

東日本各地域には、まだまだ眠っている食材や郷土の味、私たちが見つけきれず、お店でご紹介できていないものがたくさんあると思っています。今後は、未だ見ぬ、地方ならではの品を発掘して、個性のかつ深掘りした品ぞろえを実現し、首都圏の皆さまに東日本の魅力をもっともっと発信していきたいと思っています。



『のもの』秋葉原店 店長
水野 寛子

子育て支援事業「HAPPY CHILD PROJECT」

JR東日本グループでは、「HAPPY CHILD PROJECT」を掲げ、子育てしやすい暮らしやすい沿線づくりを推進しています。具体的には、社会インフラとなる駅型保育園などの子育て支援施設や、地域コミュニティの形成を応援することを意図した親子コミュニティカフェの開設、親子で楽しめるイベント開催などを進めています。

今後も子育てにまつわる様々なニーズに対応し、地域社会への貢献・沿線価値の向上に積極的に取り組んでいきます。

子育て支援施設 ～“子育てをしながら働く”を応援～

駅から概ね5分のアクセスの良い立地を中心に「駅型保育園」等の子育て支援施設の開設を進め「仕事」と「子育て」の両立を応援しています。1996年から開設した子育て支援施設は累計で79箇所(2014年4月現在)に達しており、今後もさらなる拡大をめざしています。「駅型保育園」では通勤途中に送迎ができるメリットに加え、父親と登園する子どもも多く見られ、当社の取り組みは男性の育児参加の支援にもつながっています。



新幹線沿線の駅型保育園
(太子堂すいせん保育所)



駅ビルの屋上庭園で遊ぶ園児たち
(Jキッズルミネ北千住保育所)

外出応援施設「親子コミュニティカフェ」

親子が気軽に利用でき、安心して過ごせる憩いの空間を提供するため、「親子コミュニティカフェ」の取り組みを進めています。「親子コミュニティカフェ」では、家族が快適に過ごすための機能・サービスを集約し、子育て中の家族はもちろん、世代を超えて地域の方々が集い、交流できる場を提供します。

JR東日本の進める親子コミュニティカフェの総称を「キズナ937」と言います。現在は高崎線籠原駅前「イーサイト籠原」2階で展開しています。

子育て応援イベント開催

こども鉄道作品展

当社の駅型保育園に通う子どもたちによる作品展を、鉄道博物館(埼玉県さいたま市)で定期的を開催しています。

「でんしゃ」というテーマのもと、子どもたちが制作した独創的で、夢のある作品を多くの方に楽しんでいただいています。保育園の日頃の保育活動の発表の場、また子どもたちの成長を確認していただく場にもなっています。



第5回こども鉄道作品展



ペーパークラフト教室

新幹線などの立体模型を専用紙から制作する「ペーパークラフト教室」など、親子で一緒に参加できる様々なイベントを各所で開催しています。



ペーパークラフト完成イメージ

出前授業による環境教育の展開

JR東日本では、持続可能な社会づくりに貢献するため、次代を担う子どもたちに対し、「環境問題」や「社会とのつながり」を理解してもらうための環境教育プログラムを2009年度からスタートしました。同プログラムは鉄道を題材に環境や暮らしについて理解してもらうプログラムで、2013年度は、当社エリアの小学校を中心に32校実施しました。2013年度からは、各地域の社員が主に直接学校へ出向き、授業を実施しています。今後も、引き続き取り組みを進めていく予定です。



小学校で出前授業を実施

支社出前授業担当者一覧

- 秋田エリア
- 盛岡エリア
- 新潟エリア
- 仙台エリア
- 高崎エリア
- 長野エリア
- 大宮エリア
- 水戸エリア
- 八王子エリア
- 東京エリア
- 横浜エリア
- 千葉エリア

※エリア名は、当社内での名称です。